とちぎYMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.371 2022

YMCANews 10

2022 年 10 月 1 日発行
公益財団法人とちぎ YMCA
〒320-0411
宇都宮市松原２-7-42
Tel 028-624-2546
Fax 028-624-2489
www.tochigiymca.org
発行人 / 塩澤　達俊
編集人 / 公益財団法人とちぎ YMCA

「　新しい自分との出会い　」

表紙の写真から：2021 年度さくらんぼ幼稚園さつまいも掘りにて、秋の収穫を喜び、感謝しています。

保育者を目指していてもなかなか子どもたちと関わる機会がない．．．．そんな中出会えたのが YMCA でした。さしまチャレンジキャンプから始まり、リーダートレーニングキャンプ、キャンプソングデイ、野外クラブやサッカー、幼児体育など様々なプログラムに参加し、たくさんの経験をさせて頂きました。

YMCA で活動するにあたり、あんな風になりたい！こんな風になりたい！と理想はどんどん出てくるけれど、行動がなかなか追いつかない。また、話すことやコミュニケーションをとることが苦手で自分を出すこともできない。そんな中で私は、「殻を破る」というひとつの目標をたてました。今振り返ってみても、発言する時は緊張してしまうし、考えをうまく伝えられないことだってあるし、自分から積極的に人に関わることも勇気が必要で。完全に殻を破れたのかというとそうとは言い切れません。しかし YMCA のさまざまな場でたくさんの経験をさせて頂き、完璧じゃなくても認めてくれる仲間やスタッフさんがいたから「うり」がいて、これまでとは違う今の私がいます。”あの人みたいになりたい”と思っても、近づくことはできてもなれるわけではありません。自分にはいいところなんてひとつもない！と思っていた私に、一人一人違った性格があり、個性があり、得意なことがあるということに気づかせてくれたのは YMCA でした。苦手ならば苦手なりに自身のやり方でやってみればいい。伝えれば必ずわかってくれたり、認めてくれたりする仲間がいる。私にとって YMCA はとっても暖かく居心地の良い場所です。YMCA があったから苦手なことも少しずつ好きになれたし、知らなかった自分に出会えたのだと思います。たくさん悩むことはあったけれど、YMCA に出会えたこと、「うり」に出会えたこと、本当に本当によかったなと思っています。できればもっとはやく出会いたかったくらいです。それくらい貴重な経験ができ、その経験たちが大切な宝物となりました。

今後保育者となり、さまざまな個性をもつ子どもたちとたくさんの出会いがあると思います。おしゃべりが好きな子もいれば苦手な子もいるかもしれないし、運動が得意な子もいれば苦手な子もいるかもしれません。もちろん得意なことはもっと好きになってほしいし、苦手だからと挑戦できずに殻に閉じこもっている子がいるならば、その個性を認め苦手を好きに変えていってほしい。YMCA のように暖かくどこか居心地の良い保育者であれたらいいなと思います。

「2021 リーダーのあしあと」より
とちぎ YMCA リーダー OB　大塚　菜摘（うりリーダー）

そのようなことを卒業まじかに書いていたうりリーダーは、現在、茨城県のこども園で立派に年中組の担任をして、暖かく子どもたちの成長を見守っています。

とちぎYMCAの使命。　～みつかる。つながる。よくなっていく。～

2022 年度とちぎYMCA年間聖句

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

（ピリピ人への手紙　4 章 6 節）

認定こども園 さくらんぼ幼稚園
「ぐんぐん育つひよこ組 」

私は、今年の４月から長年の夢を叶え、さくらんぼ幼稚園で働いています。そして初めて担任をしたのがひよこ組 0 歳児の 6 人の子どもたちです。入園当初は慣れない園生活に戸惑い、沢山泣いていたひよこ組の子どもたち。しかし今では、毎日ニコニコ笑顔で登園できるようになりました。

この半年間での子どもたちの成長は私の想像をはるかに超えるものでした。言葉の面では、「あーうー」などの喃語から「あんまん（ アンパンマン)」などの意味のある言葉になり、意思疎通ができるようになってきました。また、朝の会で歌う童謡に合わせて振り付けを真似することもできるようになり、手を組んでいただきますの挨拶をすることもできます。毎日経験を積み重ねてできることが増えていく姿を見て、子どもたちの成長の力を感じました。

そして、私が特に印象に残っていることは歩行ができるようになったことです。入園当初はハイハイをしていた子どもたちが一人で立てるようになり、1 歩踏み出せるようになり、今では靴を履いて外を歩くこともできます。先日初めて全員靴を履いて外にお散歩に行くことができた際には、涙が出そうなほど感動しました。そして子どもたちは自分で歩くことができる喜びを感じているのか、最高の笑顔で散歩を楽しんでいます。

こうした１つ１つの成長に立ち会えること、その喜びを子どもたちや保護者、保育者と共有できることがとても嬉しいです。これからも園生活で色々なことを経験し、成長をしていく子どもたちを見守っていきたいです。そして子どもたちの成長に置いていかれないよう、私も一緒に成長していきたいです。

ひよこ組担任　岩月　彩華

ようとう保育園
「さくら組（年長児）　お泊り保育 」

「あと何日寝たらお泊り保育？」「何やるのかな～？」など日に日に子どもから楽しみにする声が聞かれ、心弾ませながら迎えたお泊り保育の日。

1 日目、いつもはお昼寝をしている時間にかぶとむし公園への散歩に行きました。、標識などのマーク探しをしたり、皆で手つなぎ鬼をしたりして体を思い切り動かしてきました。

子どもたちのなかで、一番盛り上がったのは、絵本の『バムとケロ』から届いた手紙を元に、グループごとに5つのミッションをクリアしていく夕飯前のお楽しみタイム。グループで話し合ったり、協力したりしながら光る宝の場所を探し出しました。最後に宝を見つけたときは「やったぁ!!」とジャンプするほど大喜びでした。

「お泊り保育最高!!」と、いつもとは違う雰囲気に大興奮している子もいましたが、夜は布団に入るとあっという間に眠っていました。

翌朝には、一人でお泊りができたご褒美としてもらったメダルを首にかけ、笑顔でおうちの人に楽しかったことを話す姿が見られ、子どもたちにとって最高の思い出なったのではないかと思いました。また、お泊り保育を通して、友だちを思いやる気持ちや絆が生まれ、一回り大きくなった子どもたちの姿に成長を感じました。

浜野　愛理　　山口　浩美

～子どもの家だより～
瑞穂野北小子どもの家（瑞北めだかっ子クラブ）
「 夏休みの思い出とハロウィン準備★ 」

瑞穂野北小子どもの家では、38 名の児童が利用しています。1 年生から 6 年生まで、みな兄弟のように仲良しです。先日、窓ガラスにハロウィンの飾り付けをしました。夏休み中は、ひまわりや花火など、季節を感じる環境作りをしました。

雨で外遊びができない時、高学年が中心となり、全員で出来る遊びをして過ごしています。少人数ならではの良さを感じられる瞬間です。

主任支援員　小林　紀江

宇都宮市青少年活動センター　トライ東
「体育館の改修工事が終了しました」

この度、2022 年 10 月より開催される予定の「いちご一会とちぎ国体」に向けて行われていた体育館の改修工事が、9 月４日（日）に無事終了しました。

床は洗浄・補修・塗装の3段階を行い、人が映る程ピカピカになりました。壁は防護マットを設置し、厚く、強固になりました。

綺麗になり耐久性が向上した体育館が、国体に出場する選手たちにとってより良い練習場となればと願っております。

8 月いっぱいから 9 月の頭までという長い期間体育館の使用が出来ず、運動や筋トレ等がしたくてうずうずしていた利用者の方も多くいたことと思います。そのような状況下でも、体育館の改修工事へのご理解とご協力を頂き誠にありがとうございました。

現在は予約を再開しており、利用再開初日から多くの方が来館され、1 か月ぶりに楽しく運動をされている姿を拝見でき、こちらも嬉しい気持ちになりました。

そして、皆さまのご理解とご協力があったからこそ、こうして何事もなく無事に改修工事を終えることができたことに、今一度感謝申し上げます。

これからも体育館に限らず利用者さんが気持ちよく、楽しく、安心安全に利用できるようスタッフ一同精進いたします。

子どもの居場所　アットホームきよはら
「　ユースボランティアリーダーが遊びにきました　」

とちぎ YMCA ユースボランティアリーダーのムーミンリーダーがアットホームきよはらに遊びにきました。以下、本人の感想になります。

初めて、アットホームきよはらさんにお伺いしました。学校から帰ってきた子どもたちに「おかえり」と笑顔で迎え入れる職員さんと、「ただいま」と元気よく返す子どもたちとの関係は、大家族のようでした。その温かで、居心地のいい雰囲気のおかげで、すぐに子どもたちと打ち解けることが出来ました。

子どもたちは、「プールが始まったんだ!」「給食で牛乳のジャンケンに負けちゃったんだ」「運動会で台風の目をやったよ!」等、学校のお話をたくさんしてくれました。子どもたちが普段、さまざまな体験をしていること、たくさんの挑戦をしていること、毎日楽しく過ごしていることを知ることが出来ました。

その後、子どもたちがかき氷を作ってくれました。お友達の分まで作り、かき氷屋さんは大繁盛でした。まるで実験のように、いろんなシロップを試して、その不思議な色と味にみんなで大笑いしました。

心も体も整った子どもたちと、近くの森へ、虫探しにも出かけました。夏の虫や面白い木の形等たくさんの発見に、子どもたちは目を輝かせていました。名前を付けて、大事に大事にトンボやカエルをお世話したり、「これは昔ここが町だった証拠だよ!」と目印や瓶を見つけて教えてくれたりしました。

たくさん遊んだ後は、自分たちで夕食の準備をして、みんなで夕食を食べました。「おいしいね!」「私はマヨネーズが好き。何でもかけるよ。」とお話をしながら、みんなで食べると、より一層おいしく感じました。食事が自分の心も体も育ててくれる、この食事はたくさんの人が力を合わせて作ってくれたと感じながら、自分のことを大切に思ってくれている人がいる、だから自分自身を可愛がってあげたい等と思いながら、子どもたちが食事を味わっているように見えました。

一日、みなさんと一緒に、大切な団欒のひとときを過ごさせて頂きました。子どもたちにたっぷりと癒され、幸せな気持ちになりました。このような場に立ち合わせて下さったこと、心より感謝申し上げます。また、皆さんに会えるのを楽しみにしています。

YMCA イングリッシュのクラス紹介

YMCAイングリッシュでは、各種クラスを開講しています。このコーナーでは不定期ですが、それぞれのクラスをご紹介させていただきます。さて、今月は「成人クラス」のご紹介です。

【宇都宮 YMCA の成人クラス】

私たちの成人中級クラスは、週一回90分のレッスンをしています。みなさん旅行が好きで、世界中の様々な国へ行ったことがあります。クラスの主な目標は完璧な文法で話すことではなく、自分自身を自由に、自信を持って、英語で表現できるようになることです。レッスンは毎回とても楽しい雰囲気で、みなさん常に積極的に参加し、日々の達成できたことや、チャレンジ、目標について話すことを楽しんでいます。また、とても協力的で、お互いに助け合いながら学んでいます。

私はこのクラスを教えることが大好きで、なぜなら生徒のみなさんから日本の文化、観光地、料理やお菓子について教えていただき、また私の国の文化についてもシェアできるからです。　講師：ウィリアムス・ジョダン・シャンタナ

【宇都宮東 YMCA 成人クラス】

宇都宮東 YMCA では、上級クラスを Lee-Anne 先生が担当しています。60 分のクラスの前半は主にテキストブックを使用して、読みや表現の確認をしながらレッスンが進んでいきます。後半は主に自由なトピックでの会話が中心です。生徒さんの職業・年齢・性別は様々ですので、持ち寄られるトピックも多種多様です。それにもかかわらず、毎週、生き生きと会話が展開されていきます。先週は、古い映画について会話をしていたようですよ。生徒の皆さんからは「あっという間にレッスンが終わってしまう」という感想をいただいております。

英会話を習い始めると、誰しも壁にぶつかることがあると思います。しかし、その壁を乗り越えると、また新しい景色が見えると信じて、会話を楽しみながら続けていただきたいと願います。

パートナーシップで目標を達成しよう！

南投YMCA（台湾）からの学生たちが1ヶ月間実習を行いました！

8月1日から9月2日までの約1ヶ月間、南投YMCA（台湾）より学生8名、大学教員1名、引率スタッフ 1 名の計 10 名が来日し、特別養護老人ホームマイホームきよはらで介護実習を行いました。学生たちは、南開科技大学（台湾南投縣）で高齢者福祉について学んでいる学生で、実習ではマイホームきよはらの各ユニットに配属され、介護の基礎的知識や、認知症についての知識、実技実習など、様々な学びを深めていきました。この学生受入プログラムは、今回で 7 期目となります。コロナ禍において、皆様のご協力・ご支援頂きどうもありがとうございました。

～南投 YMCA スタッフの謝さんからのメッセージ～

私が南開科技大学の実習生を日本に引率することが分かった時には、緊張と興奮した気持ちになり、1ヶ月間の実習生活に向けて心の準備をしました。私は南投 YMCA で介護士の研修業務の担当をしています。受講生を台湾の介護実習に引率した経験がありますが、日本の介護は台湾と全く違うことが分かりました。また、マイホームきよはらでの実習期間において、実習生やスタッフの方が高齢者との活動している姿や関わりを見て、とても感動しました。

実習期間では、高齢者への尊重や、高齢者の自立支援方法、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）会議など、沢山の知識を学ぶことが出来ました。マイホームきよはらでは、利用者である高齢者を尊重することがあらゆる場面において第一にしており、台湾の介護において必要な部分ではないかと感じました。また、日本の介護サービスの中で大切にしているのは、高齢者の「社会参加」であると塩澤総主事よりお話を頂きました。一人で生活をしている高齢者の自宅に訪問し、週に少なくとも 1、2 回はデイサービスに連れて、活動に参加します。また、介護保険においても補助器具を使用し自立支援を促すことが重要視されており、行政が提唱している自立と健康の新しい生活を提供できることが高齢者にとって安心させるものだと感じました。

コロナ禍において、マイホームきよはらでの日本の介護を学ぶ機会を与えてくださったとちぎ YMCA の皆様に感謝しております。また、塩澤総主事より実習期間中、沢山の貴重な専門知識を与えて頂きありがとうございます。そして、受入スタッフの皆様には、私たちの日本での生活を支えてくださったり、沢山の場所を訪問させてくださったり、どうもありがとうございます。また、今後もこのような交流が出来ますよう願っております。

ignite ～スタッフ研修の記録～

IYC（International Youth Convocation）に参加いたしました

9 月 4 日（日）から 9 日（金）までタイのチェンマイで開催されたワイズメンズクラブ第 18 回国際ユースコンボケーション 2022（IYC2022）に、2022-23 年度東日本区ユース代表（RYR）として参加いたしました。

今回の IYC はワイズメンズクラブ国際協会設立 100 周年の記念の年に開催されたことや、新型コロナウイルス感染症拡大のため 3 年を経ての開催になったこともあり、参加のユース一同初日からエネルギーに満ち溢れていました。

内容としては、環境や、若者の心の健康についてそれぞれの置かれている立場を踏まえてのディスカッション、お互いの文化について紹介をし、理解を深めるカルチャー・ナイト、コミュニティーサービスについて知る施設や学校の訪問等と 6 日間の中で様々な学びを得ることが出来ました。

今回の IYC の中で私が最も印象に残っている出来事は、バーンガードウィッタヤーコム高校への訪問でした。こちらの高校は公立校でしたが、選択科目の中に英語・中国語・日本語の履修があり、何名かの生徒からは日本語での歓迎の言葉を受けました。また高校の一角に他の場所とは雰囲気の違う場所があり、進んでいくと日本語で「タイ ビルマ方面戦病没者追悼の碑」と書かれた旧日本軍の慰霊碑がありました。第二次世界大戦の際にインパール作戦で亡くなったタイ北部やミャンマーなどからの戦没者の遺骨が納骨されているそうです。

私の知らない戦争の歴史が、この土地で弔われていることに驚くと同時に、今まで知らなかったことに対して申し訳なく思いました。さらに、説明を聞いたインドのユースや、フィリピンのユースが手を合わせていたことにも心動かされました。私たち日本人の先祖が、インド・フィリピンの方たちを多く傷つけた歴史があると聞いております。戦後 77 年が経ち、今まで交じり合うことのなかった私たちが、たった 6 日間で心を通わせ、互いの心の傷に寄り添い、互いの為に祈ることが出来るのならば、世界はより“よくなっていく”と確信する出来事でした。そして私も人のために祈れる人であり続けたいと強く思いました。最後に、このような貴重な機会を頂けたことに感謝申し上げます。

川口　夏菜子

とちぎ YMCA ウクライナ支援募金の報告

3,411,228 円（2022年3月～8月31日）

募金はとちぎ YMCA、さくらんぼ幼稚園、マイホームきよはら、ようとう保育園、子どもの家、YMCA 会員、街頭募金や YMCA 内外のイベント、募金箱など多くの方々からいただきました。

募金は日本 YMCA 同盟を経由してヨーロッパの YMCA や日本国内の YMCA が進める支援活動に使われます。

今後も募金活動を継続いたします。日本に避難してきた方々が少しでも安心して過ごせるように、また、本国や近隣諸国で避難生活を続ける人々のために、引き続きご協力をお願い申し上げます。

※これまで「ウクライナ支援募金」に送金くださいました方にお知らせします。募金の領収書を希望される方には発行いたしますので、とちぎYMCAにご連絡ください。すでに発行したものの再発行はできませんことご了承お願いいたします。

ウクライナ侵攻から6カ月支援の近況（日本 YMCA 同盟の報告から）

この半年間、世界の YMCA は各地で力を尽くし、避難者の支援活動を行ってきました。

日本 YMCA 同盟は 3 月から、ヨーロッパ YMCA 同盟およびウクライナ YMCA と連携して日本への避難希望者のサポートをしており、8 月 25 日までに 70 組 154 名が来日しました。5 月以降は来日後の生活支援のため、ウクライナカフェ「HIMAWARI」をオープン。オンラインによる日本語クラスも開始しました。7 月以降は避難者がもっとも多い東京都との協働プロジェクト「ポプートヌィク東京」をスタート。避難者の抱える問題・ニーズと行政や民間の支援をマッチングさせる役割を担っています。

こうした活動によって YMCA は現在までに 557 人の避難者と関わっていますが、戦況の長期化に伴って心身に不調をきたす方も出ており、これからはよりきめ細やかな支援が必要となっています。

皆様からお寄せいただいた募金で支援活動が実現できていることに心よりお礼申し上げますとともに、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

SNS による近況報告

■日本 YMCA 同盟 Twitter　日々の活動
■ヨーロッパ YMCA 同盟フェイスブック　周辺諸国の支援活動の様子
■世界 YMCA 同盟ブログ　6 カ月間のまとめ記事

月刊＃（ハッシュタグ）

とちぎYMCA総主事
塩澤　達俊

第17回　#なにそれなにそれ

＃とうもころし＃ひまつぶし＃Y・M・C・A

「おこと教室」という看板が小学校の通学路にあり、なぜか頭の中で「そうそう、ココはおとこ教室」と毎朝、読んでいました。今でも、うなぎメニュー「ひつまぶし」を見ると、「おー、ひまつぶしネ」と読んでしまいます。

こういうのを音位転換というのだそうで、発音がムズカシイ音の並びを発音のカンタンな並びに入れ替えることを指した、特に 1 歳半から 6 歳ごろにみられる現象（代表例：とうもろこし→とうもころし）で、大人にも、歴史的にもあるそうです。

例えば「新しい」をみなさんは何と読んでいますか？「あたらしい」と読んだのでは？と思います。ところが、奈良時代には「アラタシイ」と読まれていたものが、いつの間にか「あたらしい」に変化したといわれています。音読みでは「新＝アラタ」ですから、「た」と「ラ」が読みやすい位置に転換されて今日に至ったらしいです。

ところで「V・U・C・A」の時代！だそうです。

「Y・M・C・A の時代！」と読み間違えた方、残念でした ^^;

「V・U・C・A」とは、「Volatility(変動性)」「Uncertainty(不確実性)」「Complexity(複雑性)」「Ambiguity(曖昧性)」の頭文字で、なにやら大変そうな感じ満載です。それもそのはず、これらは「変化が激しくて、先の見えない不確実な今日の時代状況」を象徴しているそうです。
いっぽう、たくさんの人たちがこの大問題に「では、どうすればよいか？」と答え探しにチャレンジしています。

ここ数年、これらの「答え」にわたしの心は躍っています。

SDG‘sの課題解決手法《パートナーシップ》、学びを根本から見直す《リ・スキリング（習得し直し）》や《アンラーニング（学びほぐし）》など良いです。これらに共通することは、これまでのやり方や考えかたをどんどん良い方向に変えてみよう！という変化を恐れないマインドですが、「ウエルビーイング」や「多様性と包摂性」といった新しい考え方も身につけているので、挑んでいるのに悲壮感が無く、異なる者どうしの存在が前提とされ、価値転換なのに実に軽やかです。

さて、「V・U・C・A」の時代！「Y・M・C・A」はどう「アラタ」に変化しましょうか？

ひがしやまアトムクラブ
「　夏休みが終わって　」

今年の夏休み 7 月後半 40 度近くあり暑い夏でした。
8 月に入りアトムクラブでは、9 日に名草川へ川遊びに行きました。おっかなびっくり水に足を入れる子、ちょっと深いところで泳いでいる子、魚を一生懸命に見つけている子、お友達と水のかけっこをしている子、みんな目をキラキラさせて楽しそうでした。子どもは水が大好きです。夏しかできない遊びを思う存分に楽しみました。

8 月後半ではアトムクラブの夏祭りを企画しました。

コロナ感染症が続く中、できるかな？できないかな？そして天気も不安定でした。そんななか1年生の女の子が「お家で、てるてる坊主作ったんだよ。アトムのお祭りができるようにって」そんな話を聞いて、アトムクラブでもたくさんのてるてる坊主を作りました。コロナでできなかった夏祭りが 3 年目ぶりにやっとできました。かき氷屋さん・フランクフルト・ヨーヨー釣り・ひもくじゲーム・わんこそば（そうめん）屋外でのお祭りは浴衣を着てくる子もいてとても楽しそうでした。夏祭りができて神様本当にありがとう。そんな気持ちでした。

できるタイミングで、できる事をした、そんな夏休みでした。